



学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai1/

平成28年度



笑顔があふれる学校に

校長 青木 圭介

先週は、11月としては54年ぶりという初雪が横浜にも降りました。大した積雪にならず安心した大人達とは対照的に、雪遊びができなかった子どもたちは、残念そうでした。校長室に遊びに来た子どもたちが、窓を全開にして、降る雪を捕まえようとする姿を微笑ましく眺めながら、吹き込む風の冷たさに身をすくませました。



さて、先日の朝会で、子ども達にこんな話をしました。

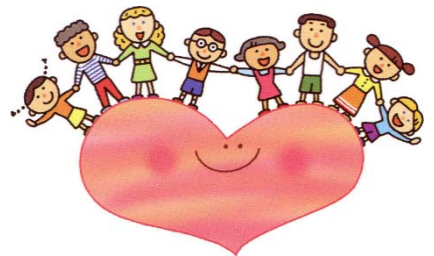
今朝は、「差別」ということについて話します。「差別」とは、人を理由もなく分け隔てすることをいいます。

私が小学生の頃、父の仕事の関係で家を引っ越し、転校することになりました。新しい学校で、初めはとても緊張しましたが、だんだん慣れてきました。そんなある日のこと、友だちから「転校生のくせに、生意気だぞ。」と言われたのです。はっきり覚えていませんが、きっとその子が気に入らないようなことを言ったのかもしれませんが、でも、私は「転校生のくせに」と言われたことに納得がいきませんでした。「転校生は他の子どもとは平等ではなく、同じように話をしてはいけない。」と言われたように感じたからです。自分は、好きで転校してきたわけではなく、父の仕事の都合で仕方なく転校してただけなのに、そう考えると悲しくなりました。

自分が言ったりやったりしたことは、その人に責任があります。でも、「転校生」であるということは、その人には何の責任もありません。本当は責任がないのに、責任があるようにあつかうことは、「差別」です。

みなさんのクラスの中にも、いろいろな背の高さの人がいますね。もし、背が高いとか低いとかいうことを理由に文句を言われたらどうでしょう。背が高い低い、自分の責任ではないですよ。体のことや顔のこと、男か女か、何歳か、兄弟がいるのか一人っ子か、家族のこと、どこで生まれたか、どこから引っ越してきたか、どれもこれも自分には責任がありません。こういったことで分け隔てをしたら、それは「差別」です。もし、みなさんが差別されるようなこと言われた時は、「それは自分の責任ではない」としっかり相手に伝えられるといいですね。あるいは言われても気にしない。そして、つらい時は、先生や大人の人に相談することも大切です。

私たちは、知らず知らずのうちに、まわりの人を差別するようなことを言ってしまうたりやってしまうことがあります。みなさん自身、そしてみなさんの周りには「笑顔」がたくさんありますか。悲しそうな顔をした人はいませんか。「差別」は「笑顔」を消します。差別のない、みんなの笑顔があふれる学校、そして社会になるようにみんなで努力していきましょう。(一部省略)



学校では、体験的な人権学習の実施や学級の人権目標づくりなど、人権尊重の意識を高めるさまざまな取組を行っています。また、すべての子どもの自尊感情を授業の中で育てることを目標に研修・授業研究にも取り組んでいます。本日11月30日には、磯子区内の小中学校長、人権推進担当教諭を本校に招いて、授業発表会を開催し、研修を深めます。今後も「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校、笑顔があふれる学校をめざして取組を進めていきたいと考えています。

12月 目標 生き物を大切にしよう